日米交渉ニ關スル外務大臣説明

昭和十六年十二月一日

陸軍

256

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0716

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

本日ハ主トシテ十一月五日御前會議以後ニ於ケル日米交渉ノ經過ニ付御説明申上ケマスカ其以前卽チ十月末ニ於ケル交渉ノ狀況ヲ概メテ簡單ニ要約致シマスルト米側ハ國際關係ノ基礎トシテ

一、一切ノ國家ノ領土保全及主權尊重

二、他國ノ内政不干渉

三、通商上ノ無差別待遇

四、平和手段ニ依ルノ外太平洋ニ於ケル現狀ノ不變更

ノ四原則ヲ堅持シ之カ適用ヲ强要セムトシ、尙帝國ノ平和的意圖ニ關シ疑惑ヲ表示シ、支那ニ於ケル駐兵ニ異議ヲ唱ヘ、通商上ノ無差別原則ヲ無條件ニ支那ニ適用スヘシト主張シ、又三國條約問題ニ付テモ之ヲ事實上死文タラシメムコトヲ求メ、交渉ハ之カ爲紛糾ニ陷

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

著シ遂ニ修復セル次第デアツタノデアリマス

斯クノ如ク兩國ノ見解對立ヲ來シタル所以ノモノハ、米國カ國際關係處理ニ付其ノ傳統的ニ堅持スル原則的理念ヲ强硬ニ固執シ、東亞ノ實情ヲ顧ミス之ヲ其儘支那其他ニ適用セントスルコトヲ主張シ居ルコトニ起因スルモノデ、米側ニシテ右ノ態度ヲ改善セサルニ於テハ、本交渉ノ妥結ハ極メテ困難ナリト認メタノデアリマス

然シ乍ラ現内閣トシマシテモ公正ナル基礎ニ於ケル日米國交調整ヲ計ルヲ妥當ト認メ、帝國トシテ能フ限リノ讓歩ヲ試ミ以テ日米衝突回避ニ最後ノ努力ヲ傾ケルコトニ致シタノデアリマス。即チ右ノ見地ヨリ當時交渉ノ主要難點タリシ三國條約ニ基ク自衛權ノ解釋、通商無差別原則並ニ支那及佛印ヨリノ撤兵ノ三問題ニ付從來ノ帝國提

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

案卸チ九月二十五日案ヲ緩和シ、(一)三國條約ニ基ク自衛權問題ニ付テハ米側カ自衛權ノ觀念ヲ不當ニ擴大セサルコトヲ言明セシメ其場合我方ニ於テモ同樣ノ言明ヲナスコトトシ、(二)無差別原則ニ付テハ右原則カ全世界ニ適用セラルルモノナルニ於テハ右カ支那ニモ適用セラルルコトニ異議ナキコトトシ、(三)撤兵問題ニ付テハ支那事變ノ爲支那ニ派遣セラレタル日本國軍隊ハ北支蒙疆ノ一定地域及海南島ニ關シテハ日支間平和成立後所要期間駐屯スヘク、爾餘ノ軍隊ハ平和成立ト同時ニ日支間協定ニ從ヒ撤去ヲ開始シ、治安確立ト共ニ二年以内ニ撤兵ヲ完了スヘク、又佛印ニ付テハ領土權權ノ尊重ヲ約シ佛印ニ派遣セラレ居ル軍隊ハ支那事變解決スルカ又ハ公正ナル極東平和確立スルニ於テハ直ニ之ヲ撤去スヘシト修正スルコトトシ、右

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ十一月五日ノ御前會議ニ於テ御決定ヲ得マシタ次第デアリマス。
政府ハ右ノ御決定ノ次第ニ基キ野村大使ニ對シ事態急迫セル此際破
綻ニ瀕セル日米國交ノ局面ヲ轉換スル爲ニハ本案ニ依リ急速妥結ス
ルノ外ナク、帝國ハ難キヲ忍ヒテ最大限ノ讓歩ヲ敢テシタルモノナ
ルニ鑑ミ、米國側モ猛省シテ太平洋平和ノ爲我方ト協調センコトヲ
切望スル旨申入方訓令致シマシタ。爾後交渉ハ華府ニ於テ行ハレタ
ルカ東京ニ於テモ右交渉ヲ促進スル意味ニ於テ本大臣モ屢々在京米
英大使ト折衝ヲ遂ケマシタ。而シテ野村大使ハ七日「ハル」國務長
官トノ會見ヲ手初メトシ、十日「ルーズヴェルト」大統領十二日及
十五日「ハル」長官ト會談ヲ重ネ、鋭意交渉進捗ニ努力スル所カア
リマシタ。此間政府ハ時局ノ重大ナルニ鑑ミ外交上十全ノ努力ヲ試

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ミンカ爲、五日來栖大使ヲ米國ニ急派スルコトトシ、同大使ハ十五日華府到着、十七日ヨリ野村大使ヲ援助シテ交渉ニ參加致シマシタ。交渉ハ當時既ニ酣ニシテ米側ハ七日以來我方ニ對シ幾多ノ點ニ付質疑ヲ提出シ帝國ノ眞意ヲ探ラントスル樣零ヲ示シマシタ。米側ハ飽ニ所謂「ヒットラー」主義ノ打倒ヲ標榜シ、帝國ニ對シ武力政策ヲ拋棄ヲ要求シテ居リマシタカ、三國條約トノ關係ニ於テ帝國ノ政策ニ對シ依然疑惑ヲ抱キ居リシモノノ如ク、今回モ帝國ノ平和的意圖ニ付前述ノ八月二十八日帝國政府ノ平和的意圖ノ聲明ニ付再確認ヲ要求スルト共ニ、日米協定成立セハ帝國ハ三國條約ヲ保持スルノ要ナカルベク右ハ消滅若ハ死文トナルコトヲ希望スル旨眞摯力說シマシタ。通商無差別原則ニ付テハ我方ノ提案セル「全世界ニ適用セ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ラルルコト」其々ノ條件除去ヲ希望シ、米國カ由來自由通商回復ノ爲努力シ來レル次第ヲ強調致シマシタ。同時ニ米側ハ別ニ「經濟政策ニ關スル共同宣言案」ナルモノヲ提議越シ、兩國協力シテ全世界ニ通商自由ノ回復ヲ計ルコト、日米通商協約ノ締結ニ依リ正常通商關係ヲ回復スルコトノ外支那ニ於テハ經濟財政通貨ニ關スル完全ナル統制權ヲ支那政府ニ回收スヘキコト、列國協同ノ下ニ支那ノ經濟共同開發ヲ行フコト等ヲ提案致シマシタ。尚又支那ヨリノ撤兵問題ニ付テハ特ニ深ク之ヲ論議セス唯永久乃至不確定期間ノ駐兵ニ對シ難色ヲ示スニ止マリマシタカ、帝國カ平和政策ヲ採ルニ於テハ米國ニ於テ日支直接交渉周旋ノ用意アル次第ヲ申出テマシタ。政府ハ右ニ對シ八月二十八日ノ帝國ノ平和的意圖闡明ニ關シ米側カ確認ヲ希

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

望スル點ハ九月二十五日附我提案中ニ包含セラレ居リ、從テ現内閣モ其趣旨ニ於テ之カ確認ニ異議ナキコト、又通商上ノ無差別原則ニ付條件ヲ附シタルハ我方ニ於テハ同原則カ全世界ニ一律ニ適用セラルルヲ希望シ、右希望ノ實現ニ順應シテ支那ニ對シテモ同原則ノ適用ヲ承認ストノ意味含ナルコト、共同宣言案ニ付テハ右カ支那ノ現實ヲ無視シ殊ニ支那共同開發ノ提案ハ支那國際管理ノ端緒トナル惧アルヲ以テ受諾シ難キコト、及米側ノ日支和平周旋申入レニハ異議ナキ旨回答セシメタノテアリマス。來栖大使ハ此段階ニ於テ交渉ニ參劃セルモノテアリマシテ、野村來栖兩大使ハ十七日大統領ト十八日、二十日、二十一日、二十二日、二十六日ト引續キ「ハル」長官ト會見ヲ重ネタノテアリマス。然ルニ十七、十八兩日ノ會見ニ於テ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ハ大統領ハ日米平和ヲ希望スル旨ヲ述ヘ、支那問題ニ付テハ平沙ヲ斡旋スル意圖ナク單ニ「紹介者」タラント欲スルモノナリト言ヒ、他方「ハル」長官ハ帝國カ獨逸ト提携シ居ル限リ日米交渉ハ至難ナルヲ以テ、先ツ此ノ根本的困難ヲ除去スル必要アリト縷々力説シ、双方論議ヲ盡セルモ難關ハ依然トシテ三國條約、無差別原則及支那問題ニ在ルコト明カトナリマシタノテ、二十日ニ至リ我方ハ從來交渉ノ基礎タリシ案文カ宣傳的色彩ニ滿チ居タルヲ簡略化シ、且意見容易ニ一致セサル無差別原則問題ヲ除去シ更ニ三國條約問題ハ先方ヨリノ提案ニ俟ツ趣旨ヲ以テ是又一應我提案ヨリ除去シ尚又支那問題ハ主トシテ之ヲ日支直接交渉ニ移スノ趣旨ヲ以テ米側ニ於テハ單ニ日支和平妨碍ヲ差控ヘシムルコトトスル新提案ヲ提出致サセマシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

タ。即チ同案ノ内容ハ左ノ通リテアリマス。

一、日米兩國政府ハ孰レモ佛印以外ノ南東亞細亞及南太平洋地域ニ武力的進出ヲ行ハサルコトヲ確約ス

二、日米兩國政府ハ蘭領印度ニ於テ其ノ必要トスル物資ノ獲得カ保障セラルル樣相互ニ協力スルモノトス

三、日米兩國政府ハ相互ニ通商關係ヲ資產凍結前ノ狀態ニ復歸スヘシ米國政府ハ所要ノ石油ノ對日供給ヲ約ス

四、米國政府ハ日支兩國ノ和平ニ關スル努力ニ支障ヲ與フルカ如キ行動ニ出テサルヘシ

五、日本國政府ハ日支間和平成立スルカ又ハ太平洋地域ニ於ケル公正ナル平和確立スル上ハ佛領印度支那ニ派遣セラレ居ル日本軍隊ヲ撤退スヘキ旨ヲ約ス

日本國政府ハ本了解成立セハ現ニ南部佛領印度支那ニ駐屯中ノ日本軍ハ之ヲ北部佛領印度支那ニ移駐スルノ用意アルコトヲ闡明ス

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

右ニ對シ米側ハ帝國カ三國條約トノ關係ヲ明カニシ平和政策採用ヲ確言スルニ非サレハ援蔣行爲停止ハ困難ナリ、大統領ノ所謂「紹介者」タラントノ提案モ日本ノ平和政策採用ヲ前提トスルモノナル旨ヲ述ヘマシタカ、之ニ對シ我方ハ米側申出ノ趣旨ニ基キ大統領ノ紹介ニ依リ日支直接交渉開始セラルルニ於テハ、和平ノ周旋者タル米國カ依然援蔣行爲ヲ繼續シ、平和成立ヲ妨碍スルハ矛盾ナルヲ指摘シ米側ノ反省ヲ要望致シマシタ。然ルニ其後モ米側ハ日米兩國カ夫夫東亞及西半球ニ於テ指導的立場ニ立ツニ異議ナク親善相互ニ太平洋協定ヲ結ヒ度シト述ヘ乍ラモ支那ニ付米國ハ蔣介石援助打切ヲ應諾セサルノミナラス三國條約ニ關スル從來ノ主張ヲ固執反覆シ、更ニ讓歩ノ色ヲ示サナカツタノデアリマス

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

此間米國政府ハ英濠蘭及重慶代表ト協議スル所アリ、二十二日「ハル」長官ハ右諸國ハ日本カ平和政策ヲ採ルコト明確トナラハ通商常態復歸ヲ實行シ得ヘキモ差當リ漸進的ニ之ヲ行フ意圖ノ如ク、又南部佛印ヨリノ撤兵ノミニテハ南太平洋方面ノ急迫セル情勢ヲ緩和スルニ足ラストナシ居レリト述ヘ、更ニ大統領ノ日支間「橋渡シ」ハ時機未タ熟セスト思考スル旨ヲ洩ラスニ至リマシタ

然ルニ米國政府ハ其後モ右諸國代表ト協議ヲ重ネツツアツタノデアリマスカ、二十六日「ハル」長官ハ兩大使ニ對シ二十日ノ我新提案ニ付テハ慎重研究ヲ加ヘ關係國トモ協議セルモ遺憾乍ラ回意シ難シト述ヘ、米側六月案ト我方九月案トノ調節案ナリトシテ第一所謂四原則（個シ第四項ハ紛爭防止ノ爲ノ國際協力及調停ニ關スル）

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

ノ確認ヲ求ムルト共ニ、第二別ニ兩國政府ノ採ルヘキ措置トシテ

一、日米兩國政府ハ英帝國、蘭、支、蘇、泰ト共ニ多邊的不可侵條約ノ締結ニ努ム

二、日米兩國政府ハ日、米、英、支、蘭、泰國政府トノ間ニ佛印ノ領土主權ヲ尊重シ佛印ノ領土主權カ脅威サルル場合必要ナル措置ニ關シ即時協議スヘキ協定ノ締結ニ努ム

右協定締約國ハ佛印ニ於ケル貿易及經濟關係ニ於テ特惠待遇ヲ排除シ平等ノ原則確保ニ努ム

三、日本政府ハ支那及佛印ヨリ一切ノ軍隊（陸、海、空及警察）ヲ撤收スヘシ

四、兩國政府ハ重慶政府ヲ除ク如何ナル政權ヲモ軍事的、政治的、經濟的ニ支持セス

五、兩國政府ハ支那ニ於ケル治外法權（租界及團匪議定書ニ基ク權利ヲ含ム）ヲ拋棄シ他國ニモ同樣ノ措置ヲ慫慂スヘシ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

六 兩國政府ハ互惠的最惠國待遇及通商障壁低減ノ主義ニ基ク通商條約締結ヲ商議スヘシ（生絲ハ自由品目ニ据置ク）

七 兩國政府ハ相互ニ資產凍結令ヲ廢止ス

八 圓弗爲替安定ニ付協定シ兩國夫々半額宛資金ヲ供給ス

九 兩國政府ハ第三國ト締結シ居ル如何ナル協定モ本協定ノ根本目的卽太平洋全地域ノ平和確保ニ矛盾スルカ如ク解釋セラレサルコトニ付同意ス

一〇 以上諸原則ヲ他國ニモ慫慂スルコト

等ノ各項ヲ包含セル案ヲ爾今交渉ノ基礎トシテ提案越シマシタ。右ニ付兩大使ハ其ノ不當ナルヲ指摘シ、強硬ナル應酬ヲナシマシタカ「ハル」長官ハ讓歩ノ色ヲ示サナカツタ由デアリマス。越エテ二十七日兩大使カ更ニ大統領ト會見セル際ニハ大統領ハ今猶日米交渉ノ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

妥結ヲ希望スト述ヘ乍ラモ去ル七月本交渉進行中日本軍ノ南部佛印進駐ヲ見タル爲冷水ヲ浴セラレタルカ、最近ノ情報ニ依レハ復々冷水ヲ浴セラルル懸念アルヤニ考ヘラルト云ヒ、暫定的方法ニ依リ局面打開ヲ計ルモ兩國ノ根本主義方針カ一致セサレハ一時的解決モ結局無效ト思フ旨ヲ述ヘタ趣デアリマス

然ルニ右米側提案中ニハ通商問題（第六、七、八各項）乃至支那治外法權撤廢（第五項）等我方トシテ容認シ得ヘキ項目モ若干含マレテ居リマスカ、支那佛印關係事項（第二、三項）國民政府否認（第四項）三國條約否認（第九項）及多邊的不可侵條約（第一項）等ハ何レモ帝國トシテ同意シ得サルモノニ屬シ本提案ハ米側從來ノ諸提案ニ比シ著シキ進歩ニシテ且半歲ヲ經ル交渉經緯ヲ全然無視セル

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

不當ナルモノト認メサルヲ得ヌノテアリマス

要之米國政府ハ終始其傳統的理念及原則ヲ固執シ東亞ノ現實ヲ沒却シ而モ自ラハ容易ニ實行セサル諸原則ヲ帝國ニ强要セムトスルモノニシテ、我國カ屢々幾多ノ讓歩ヲ爲セルニ拘ラス七箇月餘ニ亘ル今次交渉ヲ通シ當初ノ主張ヲ固持シテ一歩モ讓ラナカツタノテアリマス。惟フニ米國ノ對日政策ハ終始一貫シテ我不動ノ國是タル東亞新秩序建設ヲ妨碍セントスルニ在リ、今次米側回答ハ假ニ之ヲ受諾センカ帝國ノ國際的地位ハ滿洲事變以前ヨリモ更ニ低下シ、我カ存立モ亦危殆ニ陷ラサルヲ得ヌモノト認メラレルノテアリマス。即チ

マ、蔣介石治下ノ中國ハ愈々英米依存ノ傾向ヲ增大シ帝國ハ國民政府ニ對スル信賴ヲ失シ日支友誼亦將來永ク毀損セラレ延テハ大陸ヨ

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

リ全面的ニ退却ヲ餘儀ナクセラレ其ノ結果滿洲國ノ地位モ必然動搖ヲ來スニ至ルヘク斯クノ如クニシテ我支那事變完遂ノ方途ハ根底ヨリ覆滅セラルヘク

二、英米ハ此等地域ノ指導者トシテ臨臨スルニ至リ帝國ノ權威地ニ墜チテ安定勢力タル地位ヲ覆滅シ東亞新秩序建設ニ關スル我大業ハ中途ニシテ瓦解スルニ至ルヘク

三、三國條約ハ一片ノ死文トナリテ帝國ハ信ヲ海外ニ失墜シ

四、新ニ蘇聯ヲモ加ヘ集團機構的組織ヲ以テ帝國ヲ拘制セントスルハ我北邊ノ憂慮ヲ增大セシムルコトトナルヘク

五、通商無差別其ノ他ノ諸原則ノ如キハ其ノ關フ所必スシモ排除スヘキニ非スト雖モ之ヲ先ツ太平洋地域ノミニ適用セントスル企圖ハ

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

結局英米ノ利己的敵策遂行ノ方途ニ過キスシテ我方ニ於テハ重要物資ノ獲得ニ大ナル支障ヲ來スニ至ルヘク

要スルニ右提案ハ到底我方ニ於テハ容認シ難キモノテ米側ニ於テ其提案ヲ全然撤去スルニ於テハ格別右提案ヲ基礎トシテ此上交渉ヲ持續スルモ我カ主張ヲ充分ニ貫徹スルコトハ殆ト不可能ト云フノ外ナシト申サナケレハナリマセヌ（了）

陸軍

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

0734

国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp